

# 交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部法律経済学科
学年(出発時)	3年次
大学名	University of Central Lancashire
国	イギリス
留学期間	2013年 9月 7日 ~ 2014年 6月 21日
派遣先での身分	学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	授業
10:00	授業
11:00	昼食
12:00	授業
13:00	授業
14:00	
15:00	ボランティア
16:00	ボランティア
17:00	ジム
18:00	ジム
19:00	夕食
20:00	宿題、課題
21:00	宿題、課題
22:00	
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Academic Reading and Writing	4	2	英語	講義、レポート、試験
Academic Listening and Speaking	4	2	英語	講義、ディスカッション、試験、プレゼン
English Grammar and Vocabulary	4	2	英語	講義、ディスカッション、試験、プレゼン
English for IELTS	2	2	英語	講義、ディスカッション、試験
General English Class	4	0	英語	講義(TESOL生徒による模擬授業を兼ねるため単位なし)

大学のサポート	
チューターの有無	有
チューターのサポート内容	授業や制度に関する質問をすれば答えてくれる。
語学コースの有無	
コース名、料金、期間等	International Foundation Programme, 約10か月

生活	
住居のタイプ	フラット
住居の名前	Whitendale Hall
部屋タイプ	Standard Type
ルームメイト(国籍)	ギリシャ、ギリシャ、日本
室内設備	蛇口、洗面台、洋服入れ、タンス、勉強机、ベット
共用施設	バス、トイレ、キッチン
インターネット設備	Wi-Fi有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩 10分圏内
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	Tier 4 VISA
Visa申請先	大阪→マニラ→イギリス
Visa取得にかかった日数	1, 2週間
Visa取得にかかった費用	約4万円
Visa取得方法、提出書類等	予め東京か大阪のビザ申請センターの予約を取り、【パスポート(現在使用中のもの、期限切れのもの、すべて)、申請用紙(Appendix8, VAF9)、CASレター、語学力の証明書】を準備し、予約した日に申請に行く。
留学先大学の最寄り空港までの経路	鉄道
渡航費用	約16万円
ピックアップサービスの有無	有

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有
有る場合、その理由	就職活動開始が遅れるため
就職活動開始時期	翌年
帰国後の進路	1留年ののち卒業

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ポンド＝150円(渡英当初)～175円(帰国頃)
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	161290円(10か月分)
学費(教科書代や語学コース授業料等)	0円
宿舍費(月額)	83.02ポンド/週
光熱費(月額)	0円
食費(月額)	約2万円
その他	
留学期間中にかかった費用の合計	約100万円

**感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)**

私はこの渡航先に派遣される学生の1号生だったので、現地の情報や雰囲気、コースの内容などの情報が全くなく、不安が絶えなかった。また、イギリスに派遣される学生としても初めてで、VISA取得に関する情報が全くなかったのと、そもそも、イギリスのボーダーは世界でも屈指の厳しさで、当然VISAに関しても厳しくチェックされるため、自分一人でやるのはとても骨が折れた。それでも、渡航準備から留学は始まっているものだと考え、インターネット上のなるべく最新の情報を検索したり、UKBorderの英文ページを読み進めたり、それでもわからない場合は、日本の英国VISA取得センターに問い合わせたりし、何とか無事にVISAを取得することができ、渡航前から達成感を得られた。渡英後は特に不自由なく過ごしたが、私が参加したコースは思っていたよりも日本人が多く、外国人が少なく、コース開始早々にしてテンションが下がってしまった。その中で、私は日本語学科でランゲージアシスタントとしてのボランティアに従事した。このボランティアの内容は、日本語学科の授業がある時間にアシスタントとしてその授業に参加して、逐一生徒の質問に答えたり、少人数グループに分かれて会話の練習をする時などに、その一つを担当させてもらったりした。このボランティアは、留学している日本人全員が対象であったが、私は毎週何コマか参加し、最終的には20名ほどいる日本人の中で一番多くこの活動に従事していた。初めの頃は、日本語はわかってもそれを十分に伝えられるか心配だったが、そこは難なく教えることができた。また、何度も行くうちに日本語学科の先生や生徒からも信頼されるようになり、現地でできた友人のなかでこの活動を通してできた友人が一番多かった。留学が終わった今顧みると、クラスに対する失望からボランティア活動へすぐ切り替えられたことは大正解だったと思う。この活動がなければ、きっと留学生活は充実しなかっただろうし、不完全燃焼のままもやもやとしたものを抱えながら10か月が過ぎて行ってしまったと思う。

## 今後留学する人へのアドバイス

渡航前、滞在中、帰国後に分けてアドバイスすることにする。まずは渡航前におけるアドバイスであるが、正直、ここが一番大変で骨が折れるところである。上にも書いたが、イギリスのVISAは他のヨーロッパ諸国に比べて何十倍も煩雑であり、種類も何種類もある。学生VISAも1種類でないため注意が必要である。また、上部に記したようにシステムや取得条件がころころすぐに変わるのもイギリスVISAの特徴なので、逐一最新の情報をチェックしなければならない。次にコースの選択であるが、現在の三重大とセントラルランカシャー大学の協定の内容では、2, 3種類のコースが選べるようになっているが、今回は私が通ったIFPコースともう一つレベルの高いIBCコースについてアドバイスする。簡単にコースの紹介をすると、IFPコースが学術的英語の養成プログラムなのに対して、IBCコースが国際ビジネスに関するコースである。ここで私が声を大にして言いたいのは、なるべくIBCコースに行ってほしいということである。IFPコースには感想欄で述べたように、IBCコースまでの語学力のない日本人集まってしまうがちであるからだ。また、IBCコースにおいては、努力と忍耐力は必要であるが、交換留学期間の1年でセントラルランカシャー大学の学位を取得することが可能である。ここで浮かび上がる不安要素としてはビジネスの予備知識がないが学位の取得は可能なのかということであるが、それはおそらく大丈夫であろう。実際、ビジネスを全く学んでいなかった文学部の生徒なども最終的には学位を取得することができていたので。当人曰く、前期でビジネスについてしっかりと学習し、後期からそれらを活かした卒業論文の作成にあたるそうである。また、正直に言うと、イギリスの評価方法は日本の大学の評価方法に比べて大分低くボーダーラインが設けてあるので、想像するよりは難なく学位取得ができるであろう。ちなみにIFPコースとIBCコースの境界はIELTSのOverall6.0(各技能5.5)である。私は、1号生ということもあり、準備期間も短かったこともあり、IELTSの試験が1回しか受けることができなかつたが、これから留学先を決めるという人は、計画的に何度かIELTSを受け、スコアをのばし、ぜひともIBCコースに行ってもらいたいと思う。次に滞在中に関してのアドバイスであるが、まず日常生活について、イギリスの第一印象としてご飯がまずい。天気がずっと悪い。物価が高い。などネガティブなイメージ持っているかもしれないが、すべてがすべて事実ではない。まず、ご飯に関しては、寮生活であるので基本的に自炊生活になると思う。また、イギリスは国際的な国家なので多国籍の料理店が存在する。大学周辺には特にたくさん軽食店やスーパーが立ち並んでいる。重要な味については、日本と同じくらいの割合で、口に合わないものもあるが、当然のことながら食事全部がおいしくないというわけではなく、おいしいものもきちんとあるので心配は必要ない。次に天気について、これは評判通り基本的に曇天続きである。特に10月ごろから4月ごろまでの冬の間は天気が悪い。1週間太陽を見ないこともしばしばある。しかしながら、イギリスの雨の降り方は日本の様に大粒で、地面に叩きつけるような強雨ではなく、霧雨程度のものである。それゆえ、現地のイギリス人らは傘をあまり差さない。雨に強いパーカーなどを持っていくといいかもしれない。また、緯度が高いので冬の時期は16時ごろには既に暗くなっている。逆に、夏の時期は22時ごろまで太陽は沈まない。物価については、日本と比べるとやや高い。しかし、品目別にみると、乳製品などは日本より安いものもあるのでそこで上手くやりくりすると節約することは可能かと思われる。最後に、治安については、私が派遣されたセントラルランカシャー大学はプレストンという街にあるが、駅から大学のエリア(私たち学生の主な活動範囲)は、ほぼ学生しかおらず、治安もそこまで悪くはない。しかしながら、当然最低限の警戒は必要である。また、落とし物、忘れ物は基本的にもどってはこない。そして、イギリス全土の治安としては、一般的にロンドン、リヴァプール、バーミンガム、エディンバラなどの大都市は治安が悪いとされているが、私の個人的な感覚では、フランスやイタリア、スペインのように軽犯罪も含め、犯罪が横行するような劣悪な状況ではないと思われる。しかし、先ほども述べたように、日本のような警戒心の低さでいると危険が降りかかる恐れは十分にあるので気をつけなければならない。最後に帰国後についてのアドバイスである。これは、帰国前から考えることでもあるかもしれないが、卒業時期であったり、就職活動であったり、渡航前、もしくは滞在中にできることはやっておいたり、しっかりと計画を立てておくことが重要かと思う。

報告書記入日

2014年7月8日